

# ビューティフル天王寺区を目指して

## 2020年『街路樹や公園樹の保全活動』活動報告書

天王寺区社会福祉協議会所属「天王寺区グリーンキーパーズ」

大川英登、山元高、池田隆宏、辰己直子、佐々木瑠久子、佐々木裕子

報告者 大川英登 2021年1月7日

### はじめに

今年は新型コロナウイルス（COVID-19）に始まりコロナに明け暮れた一年であった。しかも世界で8200万人以上が罹患し180万人が死亡するというパンデミックを引き起こし（2020年12月現在）、ようやくワクチンの開発で解決の糸口が見えてきた状況である。人類と、鳥インフルエンザの感染によるニワトリにとって難儀な年となったがそれ以外の生物には影響が出ているのだろうか？少なくとも植物ではそれは感じないし、逆によく生長しているとも感じられた。それはササの伸び方、つる性植物の繁茂の状況でそのように感じられた。或いは今年の気候が生育条件に合っていたのかもしれない。

2015年9月、加盟国193か国の国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）17項目が採択され、2030年までに達成する目標が掲げられた。日本政府は石炭火力発電を中止し自然エネルギーを活用すべく2050年までにカーボンニュートラルを達成する目標を掲げた。

SDGsの中でも私たちの活動に関係する内容は目標⑯の「陸の豊かさを守ろう」であろう。具体的には「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地の劣化の阻止および逆転ならびに生物多様性損失阻止を図る」という文言である。

天王寺区グリーンキーパーズではこれらを念頭に置いて活動を続けている。主として樹木の生長を阻害しているササの除去、つる性植物の除去である。ここに2020年の活動結果を報告する。

活動を実施するにあたり大阪市建設局田島工営所（上之宮出張所）、真田山公園事務所のご協力を頂いた。

### 1 使用道具

剪定はさみ（小型）、ノコ、草刈鎌、熊手、ゴミ袋

### 2 作業方法

- ① ササは一回切除しても気温の高い間は何回でも節からひこばえが出てくるので、出来るだけ根から除去することを心掛けた。株間にあってそれが出来ない場合は出来るだけ節を残さないよう根際から切除するよう心掛けた。
- ② つる性植物もササ同様なのでつるを切るだけでなく出来るだけ塊根まで掘り取るよう心掛けた。それが出来ない場合は根際から切除した。
- ③ 実生で生えた樹木は根元から切除した。樹木も毎年ひこばえが生長するので根絶はなかなか難しい状況にあるので毎年切除している。樹種としてはタブノキ、アキニレ、エノキなどが多い。タブノキの実は鳥が運搬し、アキニレやエノキは鳥や風によって運ばれるものと考えられる。

### 3 活動日・活動場所・参加人数

活動日	活動実施場所	参加人数
4月2日	千日前通と松屋町通の交差点・南東グリーン地帯	4人
6月4日	上六近鉄前グリーン地帯	4人
7月2日	四天王寺1丁目、星光学院玄関前、生玉南交差点西側	4人
8月6日	生玉公園第1ポイント、第2ポイント	3人
9月22日	上六近鉄前グリーン地帯	1人
10月1日	生玉公園第3ポイント	4人
11月5日	生玉南交差点西側フェンス内	3人
12月3日	生玉南交差点西側フェンス内	3人
合計 8日	合計 9カ所	合計 26人

### 4 活動結果報告

作業の結果は月日別、場所別に分け、分かりやすいように手入れ前と手入れ後に分けて写真を提示した。作業状況についても一部提示した。

#### 1) 4月2日 千日前通と松屋町通の交差点・南東グリーン地帯

3年前に新しく造成されたグリーン地帯で、初年度の春にもかかわらず、取り残されたササの根からすでにササが伸び始めている場所である。昨年度はヒューマンパワーの不足から全体の3分の1が残っていたため、今年はササの生長が著しく、広範囲で伸びていた。取り残された根から新たに芽を出したササも多くあった。深掘すると造成前の古根が次々と連なって出てきた。今回ほぼ全体のササを取り終えることが出来た。しかしまだまだ古い根が地中に残っていると思われる。

作業前



作業後



50センチほどに伸びたササ

作業前



作業後



作業風景



ササを根こそぎ抜く



フイリヤブランの株を分け入りササを抜く

## 本日のメンバー



## 2) 6月4日 上六近鉄百貨店前

昨年完璧に取り除いたササがあちこちに伸びている。また、ムラサキカタバミが異状と言えるほど繁殖している。種子をまいた感じである。少なくともはなったがカラスウリ、ヘクソカズラのつるも伸びだしている。根が残っていたのであろう。たくさんの草本が繁茂していたために時間切れで取り残しが多く出たのは残念であった。

作業前



作業後



エノキの株元に伸びたササ

作業前

作業後



伸びたヘクソカズラ



伸びたカラスウリ

作業風景



## 本日のメンバー



## 3) 7月2日 四天王寺1丁目、星光学院玄関前、生玉南交差点西側

## イ) 四天王寺1丁目

昨年の作業で完全にササは取り終えたと思っていたが、シャリンバイの根元より2~3本が伸びてきており、その生命力に驚かされた。今回も全部根から掘り取った。

作業前



作業後



シャリンバイの株元にわずかに生えたササ

## ロ) 星光学院玄関前

昨年刈り取りを免れたササが50~70センチに伸びていた。また、シナサワグルミを伐採しシャリンバイを植栽されたがササの根が混入されていなければいいのだが心配である。

作業前



作業後



ポツンと伸びたササ (上、下)



## ハ) 生玉南交差点西側

この場所はシャリンバイの株元にササが生えるために根こそぎ除去するのは困難である。そのため専ら根際からの刈り取りを行っている。根絶は難しい場所である。しかしそれでもよく成長した。

作業前



作業後



作業前



作業後



作業風景



## 本日のメンバー



## 4) 8月6日 生玉公園第1ポイント

活動初期にはヒラドツツジがササに覆われて見えなくなっていたが、現在ではササは小さくなり毎年開花するようになってきた。周辺のササ刈が中心となった。

作業前



作業後



斑入りヤブランの中に繁殖したササ

作業前



作業後



ヒラドツツジの中のササ



ケヤキの株元に生えたササ

作業風景



### 本日のメンバー



#### 5) 9月22日 上六近鉄百貨店前

6月に一度作業を実施したが、草本の大繁殖でササが多く残ってしまい2度目のササ刈を実施した。3年前に新しく造成されたが、ササの根を全て除去することなく造成されたために、残り根から新しくササがどんどん伸びてきている。2年前に新造成された下寺町交差点のグリーン地帯と同じである。

なお今月は3日が予定日だったが、雨の予報で中止して代替日として22日に個人で実施した。一人で実施したので作業は半分しか処理できなかった。

作業前



作業後



フィリヤブランの中にカラスウリが広く繁茂している。塊根ごと取らねばならない

作業前



作業後



繁殖したヘクソカズラ



繁殖したヘクソカズラとカラスウリ



伸びてきたササ

作業前



作業後



繁殖したヘクソカズラ

6) 10月1日 生玉公園第3ポイント、下寺町交差点南東部グリーン地帯

イ) 生玉公園第3ポイント

ササは10~30センチ、しかも細く生えている。数もかなり減少してきた。

作業前



作業後



ケヤキの根元に生えた10センチのササ(上)とヒラドツツジの中のササ(下)



## ロ) 下寺町交差点南東部グリーン地帯

この場所は4月に一度実施したが半年でササが伸び、チガヤが入り、オッタチカタバミが背高く伸びていた。根から抜けるササもありチガヤも根から抜き取ることが出来た。ササは新造成の時に完全除去されていないため大きな根が出てくるケースもただあった。

作業前



作業後



斑入りヤブランの中に生えたササ



ファイリヤブランの中に初めて生えたチガヤ（上）と繁殖したササ（下）



### 本日のメンバー



### 7) 11月5日 生玉南交差点西側フェンス内 北東部

活動場所の中では最も広い場所である。毎年除伐している実生のエノキ、クスノキ、アキニレ、トウカエデのひこばえが今年も1 m以上に伸びている。また、ササの生長も早く昨年全てを刈り取ったのにもかかわらず50~100センチまで伸びており、その生命力には驚かされた。今回の一回ではやりきれなかった。

作業前

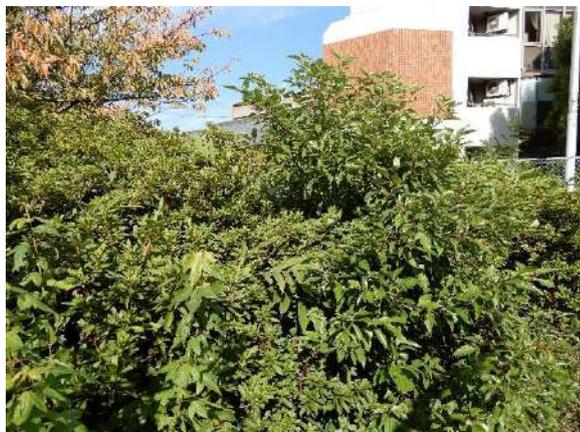


作業後



1年で2 mに生長したエノキと伐採後の状況

作業前



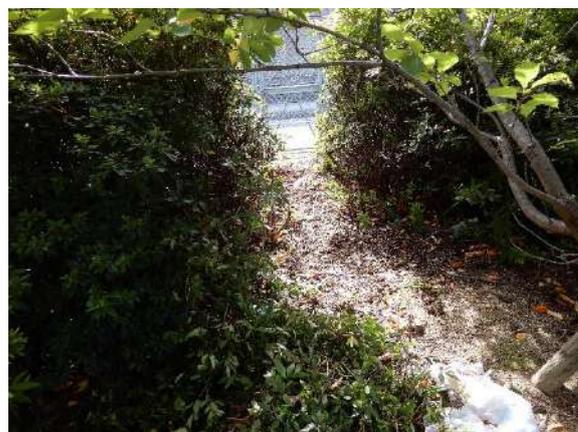
作業後



1年で2 mに生長したクスノキと伐採後の状況



1年で2 mに生長したトウカエデと伐採後の状況



道をふさいだヒラドツツジを切り開いた

## 本日のメンバー



## 8) 12月3日 生玉南交差点西側フェンス内 東側

作業前



作業後



## 3 mに伸びたアキニレと伐採後（上） 同じくエノキの伐採後（下）



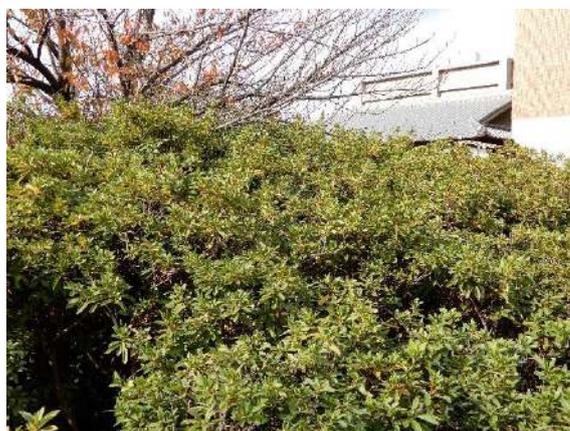
作業前



作業後



3 mに伸びたクスノキと伐採後の状況



全体的に1 mに伸びたササと除去後の状況

本日のメンバー



## 終わりに

1998年より始めた里山保全活動、森林保全活動も22年の歳月を過ぎた。主としてモソウチクの伐採、林内を明るくするための樹木の除伐、植林作業、植物調査、昆虫調査など手広く実施してきた。

その経験から街中の街路樹や公園樹の樹勢の衰え、枯死の状況を見かねて、こちらも何とかせねばとの思いに駆られて原因となっているササの除去、つる性植物の除去を2010年より開始した。

2012年にボランティア団体「天王寺区グリーンキーパーズ」を立ち上げ、有志を募り今日まで活動を続けてきた。その結果完全ではないがササやつる性植物がなくなり、樹木の生長を支えることが出来るところまできている。特にササに埋もれて枯死寸前になっていたヒラドツツジが生命を吹き返し、2年後には立派な花を咲かせるまでに至ったことは嬉しいことである。

ササもつる性植物も根から除去するのが基本であるが、株間に生えているこれらの植物は中々思うように除去するのが困難である。根気よくしかもはじめは年数回、以後長期にわたって継続してようやく初期の目標が達成できる。すなわちササに光合成をできなくして生長を押しえこんでいくしか方法がない。この方法で11年間実施してきたが3カ所は完全に制覇でき、2カ所があと一歩、広いグリーン地帯（上六近鉄百貨店前、下寺町交差点南東部グリーン地帯、生玉南交差点西側フェンス内）はなかなか困難である。これら広いグリーン地帯に手を入れていなかったら今日ではササやつる性植物で藪化したのは間違いない。そして数年後には新しく造成し直さねばならなくなる。幸いにも現時点では美観は保たれている。人間が作ったものは人間が維持管理していかなければだめになると昔から言われている。美観、より良い景観を維持するためには今後も継続して保全活動をしていかねばならない。市の関係する管理部門には一層のご理解を賜りたい。

最後に『ビューティフル天王寺区を目指して』の活動にご理解・ご協力いただいた大阪市建設局、真田山公園事務所および活動にご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。